

施工仕様書 「マデストーンVF[匠の石]」

用途	住宅、マンション、事務所、店舗、学校、その他の建築物(新築・改修)の内外壁面。
適用下地	旧塗膜面、磁器タイル等の改修下地。コンクリート面、セメントモルタル面、プレキャストコンクリート部材、ALCパネル、その他各種板・ボード類等。
施工不可部位	天端(笠木・手すり・セットバック等)や幅木、パラペットの施工は避けてください。

- ※ 本施工の前に必ず試験塗装を行い、希釈量(粘度)・塗付量(厚み)・色調等を確認し、標準見本が再現できるよう確認してください。
- ※ 表中の数値は標準状態および塗装面が平滑時の値です。施工時期・下地の形状・状態により、多少の差異を生じる事があります。間隔時間は気温23℃(湿度50%)の場合ですが、低温・高温等で乾燥条件が悪い環境の場合は間隔時間を長めにとってください。

【標準施工仕様】

工程	使用材料名と調合割合	所要量 (kg/m ²)	使用器具	回数	間隔時間	
1	下地調整	・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など)				
2	目地着色	目地着色材 20kg 清水 0~2kg	0.15~0.4	・リシンガン、万能ガン 口径:4mm 圧力:390~590KPa ・ウールローラー	1~2	24時間以上
3	墨出し	設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、振り下げまたはトランシットを使用して墨出しをしてください。				
4	目地棒貼付	目地棒(7mm以上)を墨出しに沿って、正確に貼り付けてください。				
5	下塗り (下地着色)	セラプライマーカラーHi 16kg 清水 0.8~1.2kg	0.2~0.3	・エアースプレー ・ウールローラー	1~2	3時間以上
6	主材塗り	マデストーンVF[匠の石] 20kg 清水 0.4~0.8kg	3.5~4.0	・タイルガン、万能ガン 口径:8~10mm 圧力:390~490KPa	1	0~10分
7	押え	ステンレス製コテ・塩ビ又はポリローラーで主材塗り直後から10分以内に清水を使用し、表面の立っているフレークを寝かすように軽く押さえつけてください。				
8	離形紙取り	主材表面が乾燥する前に目地棒上部の離形紙を取り除いてください。				
9	目地棒除去	24時間以上乾燥後、目地棒を取り除いてください。				

※注意事項

- マデストーンVFの主材塗膜は透過性が高く下地の色を反映しやすいため、必ず主材同系色のセラプライマーカラーHiを塗布してください。
- 目地着色材は指定の標準色の中から選定してください。
- 目地着色材は必ず全面に塗装してください。目地周辺部分だけに塗装した場合、目地着色材の線が透けて見える事が
- 目地着色材は1回塗りで下地が隠れない場合には2回塗りしてください。目地着色材が透けた状態になっていると仕上がりにムラを生じる事があります。
- セラプライマーカラーHi塗布はスプレー・ローラーのどちらも塗装可能ですがローラー塗装の場合、目地棒の下にセラプライマーカラーHiが入り込み目地箇所にも染みることがあります。
- マデストーンVF[匠の石]の主材塗膜は透過性がありますので、目地着色材の色調によって発色性に差異を生じます。
- 目地からはみ出したバリやフレークはカッターやサンドペーパーで除去してください。
- 目地幅は必ず7mm以上とってください。7mm以下の場合にはバリやはみ出したフレークの補修がしづらくなります。
- 主材塗り直後に表面の立っているフレークを寝かすように軽くコテ押え、ローラー押えを行ってください。押え方や押え器具(コテ・ローラー)によって仕上がりは多少異なります。
- 主材が内部まで完全乾燥していない状態で目地棒を除去すると主材塗膜が浮いてしまう事があります。夏期は24時間以上、冬期は48時間以上を目安とし必ず内部まで十分に乾燥した事を確認してから、目地棒を除去してください。